

令和3(2021)年度 学力向上検証委員会のまとめ

1 目的

とちぎ学力向上推進事業（とちぎっ子学力アッププロジェクト）を検証し、県教育委員会が実施する学力向上対策の改善に資する。

2 期日〔開催方法〕

- ・ 第1回 令和3(2021)年10月1日(金) [Web会議システムを用いたリモート形式で実施]
- ・ 第2回 令和3(2021)年11月1日(月) [参集型で実施]
- ・ 第3回 令和4(2022)年2月8日(火) [Web会議システムを用いたリモート形式で実施]

3 学力向上検証委員

11名 (大学教授、県小学校長会代表、県中学校長会代表、県高等学校長会代表、県小学校教育研究会代表、県中学校教育研究会代表、市教育長部会代表、町教育長部会代表、県PTA連合会代表、総合教育センター所長、教育事務所長会代表)

4 主な意見

(1) 学力向上コーディネーター派遣事業について

- 「コーディネーター」という言葉通り、学力向上コーディネーターを介し、市町教育委員会と学校が連携を深め、授業改善の意欲を高めていることは、大きな成果である。
- 学力向上コーディネーター派遣校以外の学校に対する支援として、派遣校の優れた実践や学力向上コーディネーターの効果的な取組など、有益な情報を提供していくことが大切である。

(2) 学力向上推進リーダー配置事業について

- 学力向上推進リーダーが授業を実践したり、授業者とともに授業の振り返りをしたりするなど、授業に対してきめ細かに支援していることが非常に有効である。特に、若手の教員に対する学力向上推進リーダーの関わりには、大きな効果があったと考えられる。
- 学力向上推進リーダーは、推進リーダー研修会で学力向上に関する多くのことを学び、指導力の向上を図っている。研修内容を踏まえた推進リーダーの支援が、配置校の先生達の授業力向上につながっている。今後もぜひ、これまで同様の研修会を実施してほしい。

(3) 保護者への啓発について

- 学校では、県が作成している啓発資料を保護者会等で説明を加えながら活用している。資料で、子供に自信や意欲をもたせるための具体的な言葉を示唆してもらえると、ありがたい。さらに、資料について動画で配信をするなどの工夫をすると、より一層保護者に伝える機会が得られると感じた。
- 家庭との連携における課題は、情報の発信の仕方についてである。方法や内容等を検討するなど、保護者がその気になるような発信の仕方を工夫してもらいたい。

5 委員長の総括

とちぎっ子学力アッププロジェクトの充実に向け、学力調査問題・調査結果の活用状況や各学校の校内研修の在り方など、各市町及び各学校における検証改善サイクルの確実な運用に向けた具体的な取組に関する意見を多くいただいた。その中で、県のホームページに掲載している復習・発展用教材を授業中及び休業期間の課題等で活用していることなどが確認できた。

今年度からの新規事業として、学力向上コーディネーター派遣事業を実施している。この事業と5年目を迎えた学力向上推進リーダー配置事業が両輪となり、それぞれの役割で効果を生んでいることが確認できた。学力向上のための授業改善には、学校の主体性が必要である。授業改善をするための外からの刺激やノウハウ、褒め言葉を、学力向上コーディネーターと学力向上推進リーダーそれぞれの立場から投げ掛け、相乗効果を生んでいくことが理想的な姿である。

学力向上につなげていく取組の課題として、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した授業づくりが挙げられる。また、教材研究等の支援についても考えていく必要がある。

今後とも、県教育委員会は市町教育委員会と連携し、本プロジェクトに関わる施策の実効性を高めることで、児童生徒一人一人の学力向上に向けた取組の改善・充実に努めてほしい。